報　告　事　項　２

平成 25 年度入学者選抜の結果と分析について

平成２５年　５月１７日

平成 25 年度入学者選抜の結果と分析について

大阪府教育委員会

（※全日制の課程及び多部制単位制Ⅰ・Ⅱ部に限定して検証する。）

1　選抜の結果

（1）高校への受入状況

- 入学者数は前期・後期選抜を合わせて、募集人員を 179 人下回り、昨年度の未満数（361 人）と比べ半減した。
- 公立高校への入学者が、全体（府内公立中学校卒業者のうち府内高等学校進学者）の 66.4%となり、昨年度の 65.7%と比べ 0.7 ポイント改善した。

■公私別受入状況

平成25年度選抜		公立	私立	計
募集人員（ア）		45,600人	25,209人	70,809人
入学者数（イ）		45,421人	26,076人	71,497人
	府内公立中学校卒業者数（ウ）	44,782人（66.4%）	22,654人（33.6%）	67,436人（100.0%）
	その他（イーウ）	639人	3,422人	4,061人
差引（イーア）		△ 179人	867人	688人

・公立にはｸﾘｴｲﾃｨﾌﾞ ｽｸｰﾙにおける編転入数を加えている。
・上記入学者数には併設中学校からの内部進学者は含めていない。

■公私比率と進学率の推移

	H21	H22	H23	H24	H25
公立	71.5	72.6	67.8	65.7	66.4
私立	28.5	27.4	32.2	34.3	33.6
進学率	91.6	92.1	93.5	93.4	―

※平成 25 年度の進学率については、現時点では算出できないため、「-」としている。

（2）前期選抜

- 募集人員を大きく上回る志願者が受検したことにより、平均志願倍率は 2.20 倍となり、不合格者 26,033 人を出す結果となった。
- 前期、後期で分割募集した普通科（総合選択制を含む。以下同じ。）において、志願倍率が６倍を超える学校があったが、志願割れは１校 26 人となり、二極化には歯止めがかかった。
- 同じく分割募集をしたクリエイティブスクールにおいて、平均志願倍率は 2.70 倍となり、志願割れ校はなかった。
- これまでから前期選抜を実施していた普通科単位制、専門学科、総合学科の志願者については、新設されたグローバル科で高い志願倍率となったものの、全体としては志願者数が減少した。

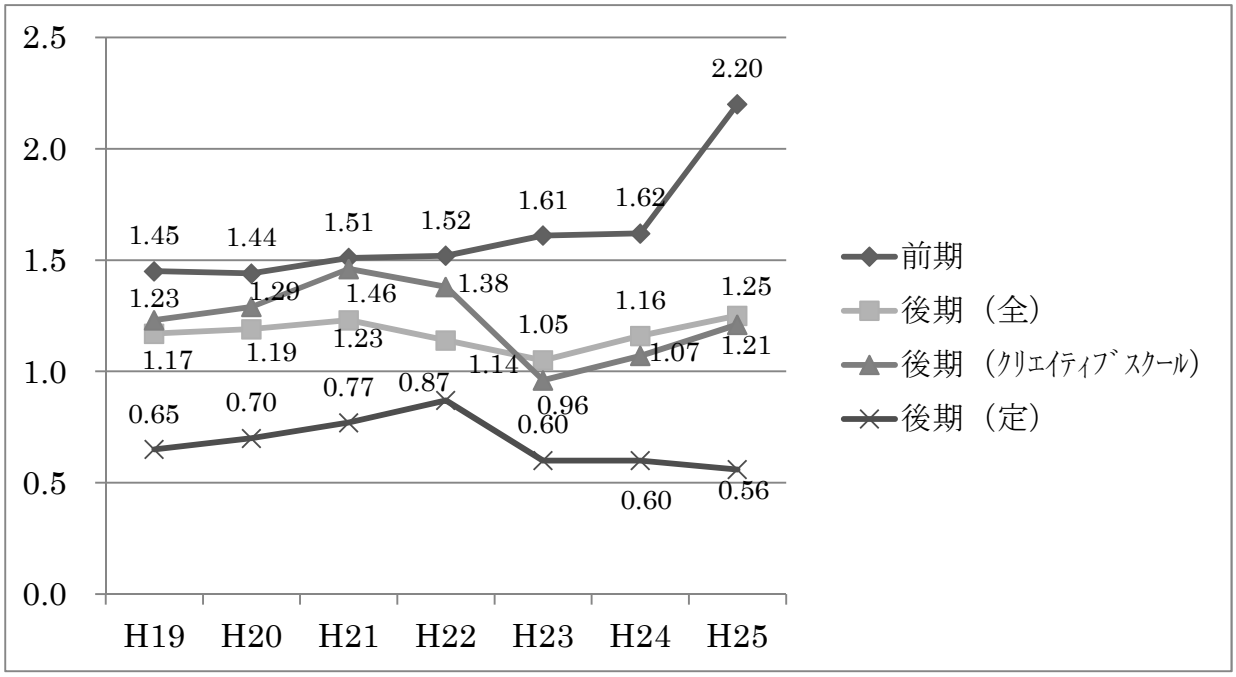
（3）後期選抜

- 全日制普通科の志願倍率は 1.25 倍、クリエイティブスクールは 1.21 倍といずれも昨年度（普通科 1.16 倍、クリエイティブスクール 1.07 倍）に比べ高くなり、志願割れは5校 165 人であった。

■志願割れ経年推移

	前・後期終了時		二次選抜終了時	
	校数	未満数	校数	未満数
H25	13	279	9	142
H24	18	481	18	348
H23	50	1,614	49	1,498

■前期・後期選抜別志願倍率の推移



２　選抜結果の分析

ー普通科等の前期選抜・後期選抜　分割募集による影響ー

（※普通科等とは、普通科、普通科総合選択制及びクリエイティブスクールのこと）

（１）公立志向への変化

- 公立高校への入学者が、全体（府内公立中学校卒業者のうち府内高等学校進学者）の66.4%となり、昨年度の65.7%と比べ0.7ポイント改善した。

（Ｐ１の表　参照）

■平成25年度選抜

	前期選抜	後期選抜
募集人員	21,623	23,662
志願者数	47,516	29,531

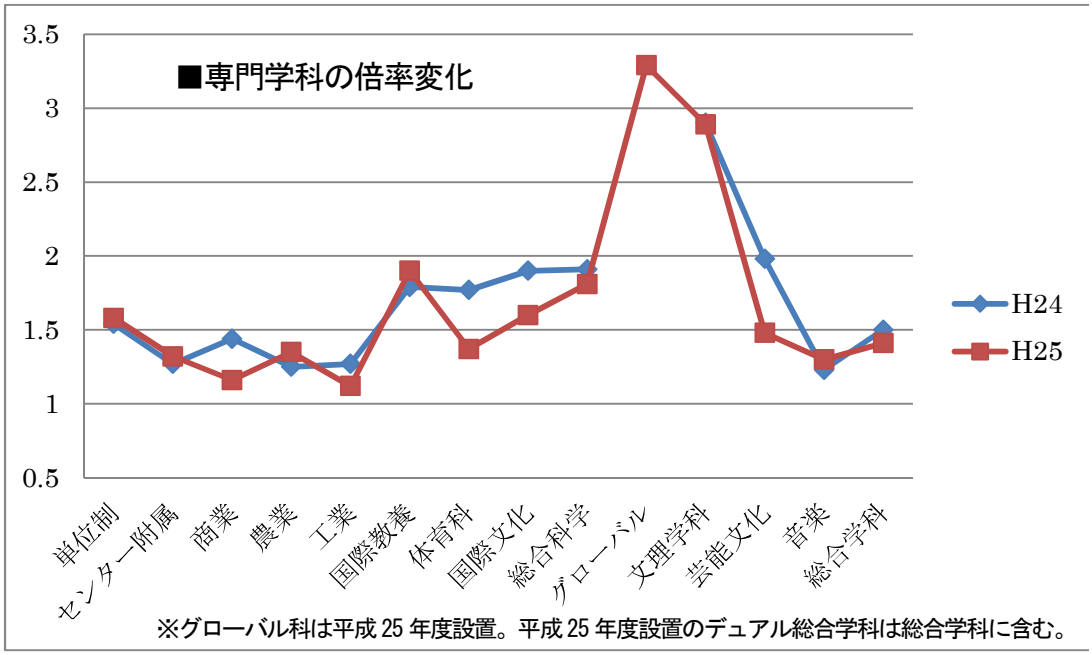
■平成24年度選抜

	前期選抜	後期選抜
募集人員	14,373	29,228
志願者数	23,245	33,846

- 前期選抜不合格者のうち約95%が後期選抜を受検しており、府立高校入学者に実施したアンケート調査（抽出で実施）において、後期選抜を受検した理由のうち、「どうしても公立高校へ行きたかったから」が、63.6%と最も多かった。

（２）前期選抜

- 普通科等志望の生徒が公立高校を２回受検できるようになったため、多くの学校で募集人員を上回る志願者を確保するとともに、「入りたい学校」を受検する「チャレンジ受検」の傾向が見られた。
- 新たに設けた普通科等へ志願者が集中した一方で、専門学科等の志願倍率が低下した。



（3）後期選抜

- 前期選抜不合格者のうち、約 95%が後期選抜を受検した。そのうち全日制普通科において、前期選抜受検校と同じ学校を受検した割合は、学校ごとで約 54%から 98%の間であった。
- 前期選抜不合格者のうち、後期選抜を受検していない割合は約５%であった。
- 多くの受検生は２回の受検機会を活用し、学校を選択したと考えられる。
- 普通科の志願倍率が過去最高の 1.25 倍となった。これは、前期・後期選抜の分割募集に伴い、後期選抜の募集人員が減少したことが第一の要因であると考えられる。このほか、普通科を前期で募集したことによって、専門学科の志願者が普通科へ流入し、普通科志望者が増えたことも要因として考えられる。

（4）前期・後期選抜における普通科の男女比率について

- 前期選抜普通科における志願者の男女比率は、44.5%と 55.5%であり、合格者の男女比率は 29.5%と 70.5%であった。
- 後期選抜普通科における志願者の男女比率は、50.6%と 49.4%であり、合格者の男女比率は 49.4%と 50.6%であった。

■普通科の志願者・合格者の男女比率
（男女別　志願（合格）者数/志願（合格）者総数）

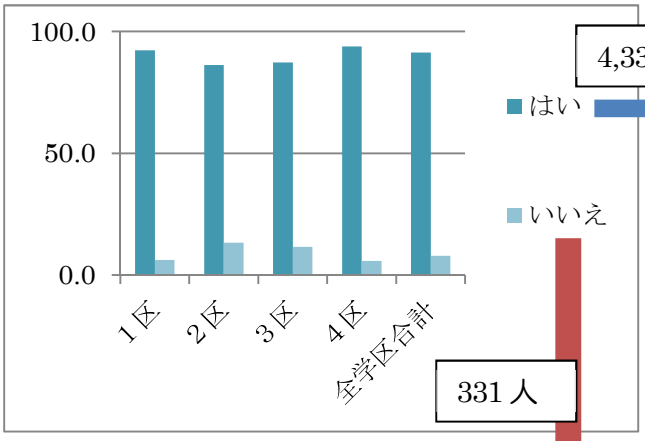
H25	志願者割合		合格者割合	
	男	女	男	女
前期選抜	44.5	55.5	29.5	70.5
後期選抜	50.6	49.4	49.4	50.6
合計	47.8	52.2	45.1	54.9

H24	志願者割合		合格者割合	
	男	女	男	女
後期選抜	46.7	53.3	46.9	53.1

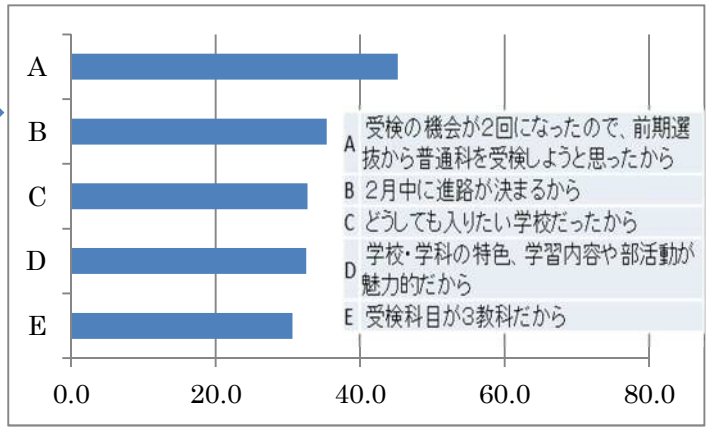
（5）受検者の意識について

- 府立高校の中から学区ごとに4校抽出（計 16 校、4,720 人）し、普通科へ入学者した生徒に対して、入学者選抜に関するアンケート調査をした。

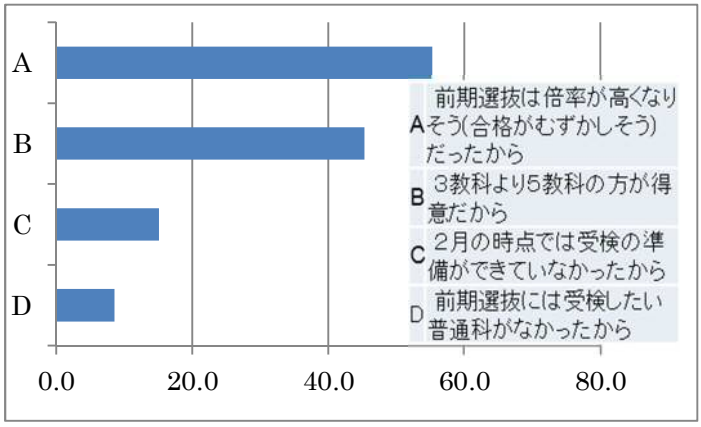
前期選抜を受検しましたか？



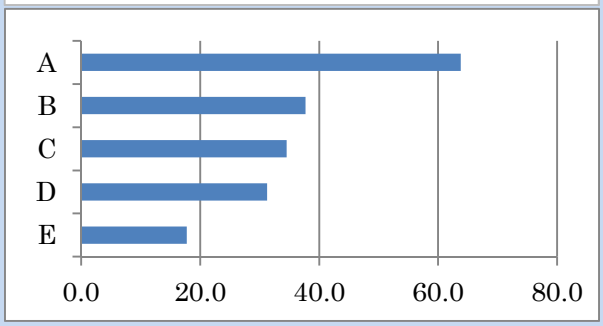
前期選抜を受検した理由の上位（複数回答可）



前期選抜を受検しなかった理由（複数回答可）



後期選抜を受検した理由の上位（複数回答可）



A	どうしても公立高校に進学したかったから
B	どうしても入りたい学校だったから
C	学校・学科の特色、学習内容や部活動が魅力的だから
D	通学するのに便利だから
E	保護者や中学校の先生などにすすめられたから

３　まとめ

平成 25 年度選抜において実施した普通科等の前期・後期の分割募集により、受検生にとって前期志願先の選択肢が拡大されるとともに、複数回の受検機会を持つという点で一定の成果があり、その結果、公立高校への志願者が増加した。

一方で前期選抜において、多くの受検生が不合格となり、かつ後期選抜出願までの日数が３日間であったため、中学校における進路指導において、精神的ケアも含めたきめ細かな指導を短期間で行う必要があったという意見もある。

今年度の選抜制度の変更による影響については、引き続き中学校、高等学校等、関係者から意見を聞きながら、今後の選抜制度について検討していく。ただし、平成 26 年度選抜については、平成 25 年度選抜で制度変更を行ったこともあり、大きな枠組みの変更はせずに実施する。